

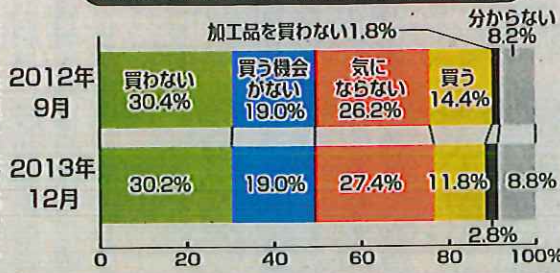
2014年2月13日(木)

福島民友掲載記事

# 福島民友

首都圏消費者

首都圏消費者の県産品に対する意識



県商工会連  
意識調査

## 県産品「買わない」30%

### 風評の根強さ裏付け

県商工会連合会は12日、昨年12月に首都圏の一般消費者を対象に行った県産食品などに対する意識調査の結果を発表した。

「買わない」と答えた消費者は30・2%で、前回調査（2012年9月）の30・4%と比べほぼ同水準だった。首都圏の消費者の県産品に対する意識はこの1年間でほとんど変化がなく、本県への風評が根強いことを裏付けた。

同連合会は「本県の風評被害はあまり改善していない」と分析し、風評被害の払拭に向けたPR活動やイベントを実施する考え。調査結果は「グラフ」の通り。「買わない」（加工品を含む）「買う機会がな

い」と答えた消費者は合わせて52%で前回に比べ0・8%上昇したのに対し、「買う」と答えた人は11・8%と、前回より2・6%低下した。

調査には、20～80歳までの首都圏に住む男女500人がインターネットで回答した。

一方、同連合会が昨年開いた「福島の良いもの食のフェア」の来場者聞いた県産品に対する安心度については「とても安心」「安心」「やや安心」と答えた割合が会場場で71・5%だったの対し、郡山会

場では58・6%と低下した。同連合会では会津地方と中通りで、食品に対する安心感に差があるとみている。

場では58・6%と低下した。同連合会では会津地方と中通りで、食品に対する安心感に差があるとみている。



# 本県「安心」50.9%

## 県商工会連合会 首都圏消費者調査

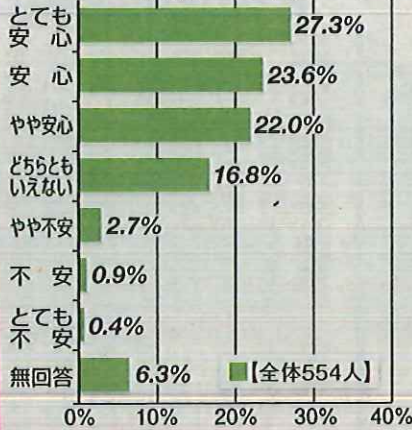
県商工会連合会は首都圏の消費者を対象とした意識調査の結果をまとめた。本県に対するイメージについて「安心」と回答した割合は半数超の50・9%だった。

調査は同連合会が昨年十二月に東京都で開催したイベントに合わせ、はがきで実施した。「食品の検査体制への理由について、「とても安心」と回答したケースでは9・9%が「安心」の通り。

五百五十四人から回答を得た。このうち、27・3%が「とても安心」、23・6%が「安心」とし、安心だと受け止めている回答が半数を上回った。回答は「トラブ」の通り。

県産農林水産物は56・2%、県産加工食品

首都圏の消費者の本県へのイメージ



は60・7%が「とても安心」または「安心」だった。

◇ ◇

昨年十月から十一月にかけて開いた福島のも美味いもの食のフェアに合わせ、会津会場(会津若松市)と郡山会場(郡山市)で実施した調査では、県産食品について「とても安心」「安心」「やや安心」と回答した割合が、

会津会場71・5%、郡山会場58・6%だった。会津会場は二百九十九人、郡山会場は三百二十九人が回答している。

同連合会は「県産食品の風評払拭(ふっしよく)と安全・安心の周知のため、PR事業に力を入れる」としている。